

令和5年度 学校評価 自己評価書(1学期)

1 学校の教育課題

○学ぶ喜びを知り、確かな学力を身に付けさせるために	○思いやりの心と自律・自製の心を身に付けさせるために
○心身ともに健康でたくましい子供を育成するために	○学校力の向上

2 課題と改善策

評価項目・観点		1学期	成果・課題・改善方策
重 点 指 導 目 的	教師の姿	3.1	<p>⑤持ち物の管理ができない児童が気になる。落としても探しに来ない児童が多い。学校全体で物の大切さも含めて教えていかないとけない。</p> <p>⑥iPadの持ち帰りについて、使い方やマナー、ルールを何度も繰り返して呼びかけることを続けること、指導を続けるしかないと思っている。</p> <p>⑦生活リズムが整えられない家庭や子供たちが見られる。子供のことを考えた指導を子供そして保護者にもしていく必要がある。</p> <p>⑩あいさつや返事は継続指導が必要。(特に女子)あいさつや返事をできることを教える。</p> <p>⑪4月スタート時に、いじめ、火遊び事案があった。命に関わることだと親も交えて厳しく指導する部分は行ったが、まだまだアンテナをはっておく必要がある。</p> <p>⑮「歩いて登下校」について児童・保護者共にもっと意識を高める必要がある。</p> <p>⑯外遊びの2極化をどうにかしていきたい。</p> <p>⑰外遊びの子供たちで帽子をかぶらない児童がたまにいる。熱中症対策を呼びかけていきたい。</p> <p>⑳個人の課題であるが研修に対する意識が低く申し訳ないです。</p> <p>㉑研修でロイロノートの使い方を教えてもらい勉強になった。ナビマの使い方も再度教えてほしい。</p> <p>㉒不登校傾向の児童が増えているような気がする。小学生は衝動的に自殺するという話を聞いたことがあるので、全職員で情報を共有し、担任だけが抱え込むことがないようにしていきたい。</p> <p>㉔「安全指導」「校内の決まり」等、指導体制の温度差を感じる。全職員で同様の指導が必要ではないか。</p> <p>㉖本を読みたくなるような取り組みをもっと考える必要がある。</p> <p>㉘少食と偏食が目立つ。嫌いなものは食べられる量を相談して減らしているが残食が多くなってしまふ。</p> <p>㉙牛乳は数名の欠席ならば学級で消費してはどうか。</p> <p>㉚清掃中は無言掃除を呼びかけていく(中学校も実施)。また教員共に清掃活動を、2分前の放送が鳴るまでは掃除場所にとどまることを指導していく。</p>
	① 目標を明確にし、まとめの充実した分かる授業・学力をつける授業、学力の定着に向けた授業改善(全教員による一人一授業)。 ・ 対話的な学びの研究推進、深い学びの場面設定、ICT機器の活用、単元テスト等の無答回答0・100点返却、質と量にこだわる読書指導	3.0	
	② 子ども一人一人の実態に応じた指導の充実を図る。 ・ 支援員等による支援体制の強化、計画的な支援と情報の共有	3.0	
	③ 基本的学習習慣を徹底する。 ・ 「3構え」の徹底、「学習の約束事」の徹底、家庭学習の充実	3.0	
	④ 話をよく聴き、学んだことをノートに整理するなどして、1学期の学力を身に付けることができたか。	3.0	
	⑤ 前日に学習用具をそろえるなど、学習の準備をしっかりと行い、学習のきまりを身に付けることができたか。	2.8	
	⑥ メディア(テレビ、ゲーム)を使用する時間の約束を守って、家庭生活を整え、毎日、家庭学習を行っていたか。	2.8	
	⑦ 学校生活での基本的学習習慣の確立を図る。 ・ きもちのよい挨拶、「はい」の返事、節度ある生活、作業終了後の後始末の見届け、静かな廊下歩行と校内での正しい過ごし方	3.1	
	⑧ 授業を要とした道徳教育・人権教育の充実を図る。 ・ いじめや差別・問題行動・不登校の防止、生命尊重・思いやりの育成、図書コーナーの充実、教育相談・アンケート等取組、関係団体との連携	3.2	
	⑨ ボランティア活動の充実を通して、自主的、実践的な態度を育てる。 ・ 「気づき、考え、実行する」、1活5本運動の推進(運動場、学級園等)	2.8	
	⑩ 気持ちのよいあいさつや返事ができ、丁寧な言葉遣いが身に付いているか。	2.7	
	⑪ 自分の命を守るための手立てを理解して行動したり、他の命も大切にすることをもち、思いやりの態度で人に接しやすくなっているか。	2.9	
	⑫ 読書やボランティア・お手伝いなどの社会体験を通して、学年相応の豊かな心が育っているか。	2.9	
	⑬ 教科体育の充実と体力づくりの生活化に努める。 ・ 実態把握、遊具の活用、ジョギング、縄跳び、体づくり運動(補助運動)	2.5	
	⑭ 保健指導の充実を図り、健康で衛生的な生活を送れるようにする。 ・ 大きなけが・病気の予防指導、疾病治療の促進(家庭への連絡)、容儀指導の徹底、美しい姿勢、衛生的・美的環境の整備	3.0	
	⑮ 校内及び校区での安全・安心な学校づくりを展開する。 ・ 安全指導の徹底、危険予知能力育成、安全点検の定期実施と修繕、歩いて登校の推進	3.0	
	⑯ 外遊びやスポーツを通して積極的に体力づくりに取り組んでいるか。	2.9	
	⑰ 健康診断結果を活かして治療したり、手洗い、うがい等を実践し、その他の病気の予防をし、健康に気を付けているか。	3.1	
⑱ 「早寝・早起き・朝ごはん」や「ハチツボネ」などにより、身なりや生活リズムを整えようとしているか。	2.9		
⑲ 教育課程に即して各教科・領域等の指導計画は完全に実施できたか。	3.5		
⑳ テーマ研修に課題意識を持って意欲的に取り組み、日々子どもの指導に生かすことに努めたか。	3.2		
㉑ 人権教育に対する認識を深め、偏見や差別を見抜く、豊かな感性や思考力を育てることに努めたか。	3.1		
㉒ 一人一人の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮をもとにして全教職員で指導する校内支援体制で臨むことに努めたか。	3.2		
㉓ 情報セキュリティに気を付け、個人情報保護や著作権保護・危険性についての指導をしながら情報機器等を活用することに努めたか。	3.4		
㉔ 生活指導に関し、職員間の情報交換や緊密な連携、迅速で効果的な対応・継続的な指導に努めたか。(共通実践事項の徹底)	3.3		
㉕ いじめが起きにくい・許さない環境づくりに心がけ、早期発見・迅速な対応・個人面談やアンケート等を通じた実態把握に努めたか。	3.3		
㉖ 子どもとの語らいや遊び、日記、普段の観察を通して個を深く理解し、個に応じた教育相談や適切な指導に努めたか。	3.3		
㉗ 学活や児童会、各行事などの取組にあたりその目的や特色を踏まえ、子どもが所属感を深め、主体的な実践ができるよう適切な支援に努めたか。	3.2		
㉘ 読書生活の向上を図る指導や適切な図書館利用を通して、子どもの意欲・関心を高め、心豊かな子どもを育てられるように努めたか。	3.1		
㉙ 身だしなみや衛生、食事のマナー、歯みがき等を指導し、望ましい食事のあり方を身に付け、偏食の指導に努めたか。	3.1		
㉚ ごみ・節水・節電・リサイクルなどの環境に優しい活動に取り組んだり、子どもとの協働や巡回指導を通し、清掃指導の徹底に努めたか。	3.2		
㉛ 保護者の十分な理解や協力を得るための具体的な手立て(学校だより、週報、HP、安心メール等)を講じ、相互に連携して指導を進めることができていたか。	3.2		

【小中連携について】  
①小中連携の工夫が必要。連携が希薄に感じる。 ②小中連携に参加し、皇徳寺中や近隣の小学校の実態を共有することができた。  
③小中連携研修会では、時間は十分に取れなかったが、近隣の学校と意見交換ができ、より広い視点から本校の教育を見直すことができ、有意義だった。授業を参観できなかったのが残念だった。

【保幼小連携について】  
①保幼小連携は、時期が近すぎる。来年度は本校で行われる予定なので、時期を考えるべきではないか。  
②保幼小連携の2回の期日が近かった。もう少し離れた方が変容などについて話せるのではないかと思った。  
③保幼小連携の研修会で、色々な情報交換ができた。

【学校ボランティア等について】  
①学校支援ボランティアの制度は大変ありがたい。 ②1学期は学校支援ボランティアを活用する機会がなかったので、2学期は活用したい。  
③学校支援ボランティア、保護者の協力体制は有難い。時間割と保護者の予定が合わず、活用しきれなかった。日程調整等、運用の方法を考えたい。  
④生活科の学習、校区探検では、保護者や地域の方々から引率をしていただき、助かった。 ⑤しいの木文庫さんによる朝の読み聞かせは、心が落ち着く大切な15分間だ。

【勤務・職場環境などについて】  
①勤務規律に気を付けて生活を送ることができた。 ②安全運転を心掛けた。  
③児童の話をしっかり聞いた上で指導するなどして体罰等に繋がらないように努めた。  
④コロナが緩和されているが、さまざまな感染症が広がっているため、教員も児童も熱中症対策を行いながら感染予防に努める。  
⑤勤務規律の厳正確保に努めることができた。風通しの良い働きやすい職場になってきている。  
⑥会議資料や提出物などを期日までに提出してありがたかった。身近にできる働き方改革はそれぞれが期日を守って働くことだと考える。今後も意識していきたい。

3 次学期に向けての取組  
・子供たちに話の聞き方、発表の仕方、筆箱の中身等基本的なことを2学期の最初に再度指導し、学習にしっかりと取り組めるようにする。  
・あいさつがしっかりとできる児童を学校全体で育てていく。  
・教員共に活動し教師の姿を見せて子供たちに指導していく。  
・学力の向上のために、「めあて」と「まとめ」の整合性や、思考過程の分かる「板書の工夫」、「考えを交流する場の設定・言語活動の充実」「ノート指導」の徹底を行っていく。  
・自分を大切に、相手を意識した行動ができる子供に育てていけるように、道徳をはじめ学校生活全体で指導していく。  
・行事を計画するとき、その後のことも考えて調整していく。